



4月より、朝日町へ赴任してこられた先生方からのメッセージです。

17年ぶりの朝日町  
朝日町立さみさと小学校 教頭 松井 美之

17年ぶりに朝日町に戻ってきました。豊かな自然や温かい人柄は前と変わらず、とても懐かしい気持ちになります。

校舎内外を歩いていると、あちらこちらから「教頭先生」とかわいい声がかかります。「今度の休みにね、家の人と一緒にいちご狩りに行くよ。」「ちょっと見て。ほらガマガエルいたよ。」本当に人懐っこく、そして明るく元気な子どもたちです。

学習参観日、「先生」の声に振り向くと、そこには子どもではなく、21年前に朝日中学校を卒業した教え子が保護者として立っていました。親子2代にかかわることができるこの縁に感動したのと同時に、身の引き締まる思いをもちました。

今、目の前にいるのは朝日町の未来をつくっていく子どもたちです。そのキラキラした瞳が輝きを失わないよう、努力していきたいと思っています。どうぞよろしく願います。

素直な心に触れ・・・

朝日中学校 教諭 飯田澄代

10年ぶりに朝日町に戻ってきました。4月以来、さわやかなあいさつ、響きわたる校歌を聞き、毎日、すがすがしい気持ちで過ごしています。一人一人が節度ある行動ができ、互いに認め合う雰囲気、朝日中のすばらしさを感じています。古い校舎を丁寧に掃除する姿や、「お願いします」「ありがとうございます」と自然に出てくる言葉に、感心することも多いです。子どもたちの素直な心に触れるたびに、心温まる思いをしています。

音楽の授業では、顔や体全体を使って一生懸命歌う子どもたちを見て「私も頑張らなくては・・・」と元気をもらっています。私は、子どもたちに「美しいものを聴いて美しい!」と感動できる人になってもらいたいと思っています。音楽を通して、歌うことの楽しさや音楽のすばらしさを感じてくれるよう、全力で取り組んでいきます。

子どもたちは、日々成長しています。常に高い目標に向かって努力し続けていってほしいです。一緒に活動する中で、共に学び、共に笑い、少しでも子どもたちの支えになれたらと思っています。よろしくお願いします。

生徒と共に成長を

朝日中学校 教諭 山田 智徳

朝日中学校に着任して早2か月、あっという間に過ぎていったように感じています。

本校に勤務して、すばらしいと感じたことがあります。それは、すれ違う生徒全員が、とても気持ちのいいあいさつをしてくれることです。毎朝、生徒とあいさつをしているうちに、こちらも自然と笑顔になり、いつも楽しい気分で学級に向かっています。

学級にいと、いろんな生徒が話しかけてきます。学習の話、部活の話、ちょっとした相談、趣味についての雑談など、あらゆるところから生徒の新たな一面が垣間見えて、毎日がとても新鮮です。と同時に、この生徒たちのよさを最大限に引き出していきたいと強く思います。

私の学級の学級目標は、「全力挑戦・限界突破」です。私自身も、まだまだ未熟な点が多々あります。だからこそ、生徒と一緒に様々な活動に挑戦し、たくさんの思い出や、喜びを分かち合って、自身の限界を超えるための原動力にしたいと思っています。そして、生徒と共に日々成長していきたいです。

朝日中学校に着任して思うこと

朝日中学校 主任 折戸 淳子

「この学校へ来ると、生徒さんがあいさつしてくれるんで気持ちがいいんですよ。」

これは学校へ来られた業者さんの一言です。

本当に朝日中学校の生徒はよくあいさつをしてくれます。態度もきちんとしています。でも、それは朝日中学校の先生方が生徒のことを真剣に考え、粘り強く指導しているからだ、ここへ勤務して分かりました。

中学の3年間は自分を見つめ、次へ向かって進んで行く大切な基礎を作る時期なんだとつくづく感じます。私の子どもも3月に朝日中学校を卒業しましたが、高校で一生懸命にやっている姿を見ると、先生方にいろいろ教えていただいたおかげと感謝の気持ちでいっぱいです。

自然にあいさつができる学校。それは毎日の積み重ねで成っています。今日も、明日も生徒へ声をかけ、話をし、時には叱り、時には励まし……。そんな繰り返しが学校には大切なのではないかと思います。

私にはそんなことはできませんが、自分の仕事を通して、少しでも先生方のお手伝いができたらいいと思っています。

平成23年度 センター事業より

小学校学習会 2年・4年・6年

◎6年生社会科学習会（不動堂遺跡・まいぶんKAN） 4月20日  
◎2年生生活科学習会（南保みず穂館周辺） 5月24日

面性を楽しむ」

まいぶん KAN 高塩 さおり

昨年からはまった「小学校交流会(現地学習)」(以下、交流会)などの学校教育に参加させていただき、当館の様な地域に根ざしたの歴史民俗施設のあり方について改めて考えるきっかけをいただきました。まいぶんKANが開館して5年目に突入し、勾玉づくりなどの体験教室を通して子供たちと関わる事が増えました。「遊び」と「挑戦」をちらつかせ、あえて不便な大昔の方法でモノ作りを開始しますが、そのうちに自分なりの製作方法を考え出す子もいます。縄文人の真似ごとから一歩抜け出せた子が現れると、人間の進化の過程を垣間見られてこちらもニンマリします。遊びの中から独自のルールをつくるのは子供たちの得意分野です。私自身も楽しませてもらってますし、遊びの場としての役割は随分と定着してきたかと思っています。

一方、朝日町の歴史資料にどのように興味をもってもらうかが難しい。縄文土器などを個人の興味でじっくり眺める子はなかなかいません。ガラスケースの中に納まる、手に触れることが出来ないモノにおもしろ味は感じないのでしょうか。

でも、遊びだけでなく、知る喜びも感じて欲しい。そこで必要としたいのが「学校教育との連携プレイ」です。

交流会では不動堂遺跡に行き、薄暗く煙臭い竪穴住居に入り、周囲の木々を眺め、約5,000年前の生活を思い浮かべる。単なる芝生の公園ではなく、国指定史跡として守られている理由を学ぶ。まいぶんKANではグループで協力し、館内の展示を見ながら朝日町の考古クイズに取り組む(教育センターのご協力によりやっとウォークラリーらしくなりました!)。生徒の半数以上が不動堂遺跡や当館に来たことがあるそうですが、学びの機会は初めてかもしれません。いつもとは違う視点で遺跡や館内を見て歩けたのではないかと思います。

また別の授業(課題)ではユニヴァーサルデザイン、朝日町の公共施設や職業調べといった考古に限らない調査で来た生徒もいます。学校教育に関係したことで、先史から現在までの好きな部分を切り取って使える施設になることが当館の役割のひとつだということを学びました。子供たちには、物事をいろいろな方面から見られるようになって欲しいと思います。

後日、交流会の感想文を読ませていただき、その中に印象に残る一文がありました。

「人は、次の世代の人に少しずつなにかを残しているような気がします。」

ジャンルは問いません。その「なにか」を沢山見つけられるといいですね。